

ふるさと再発見

第8回

Re:discovery Omihachiman

勇壮捨身の行湖面に飛び込む

伊崎の棹飛び



浄衣をまとい棹の先から琵琶湖に飛び込む行者



見物客を乗せた田舟で湖面が鈴なりになっていた昭和30年代の伊崎の棹飛び

る棹飛びは、長さ13m、幅30cm、湖面から約7mの高さに突き出た棹の突端から琵琶湖へ飛び降りる勇壮な行事です。当日は本

堂において、百日回峰を終えた行者（修行僧）によって大般若経転読法要が営まれるのに続いて人々の願いをかなえるために自らを犠牲にする「捨身の行」として棹飛びが行われます。

棹飛び堂や湖上から信者や多くの参拝客が見守る中、白い浄衣をまとった行者は風にゆれる棹の先端にたどりついた後、静かに手を合わせ不動明王の真言などを唱えながら湖面に飛び込みます。湖面に上がる大きな水しぶきはまさに圧巻です。

なお、伊崎寺は平成27年に文化庁から日本遺産「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」の構成文化財として認定されています。

湖国の夏の風物詩として県内外に知られる「伊崎の棹飛び」は、白王町の琵琶湖畔の伊崎寺で旧暦の八朔にあたる8月1日に開催されます。この行事は天台宗総本山の比叡山延暦寺の修験道場である伊崎寺で、約千年にわたって続けられてきたといわれています。

開祖とされる役行者がこの地を見つけられ行場としたといわれ、その折にイノシシが役行者をこの地に導いたことから「猪先（いさき）」という名になったと伝えられています。その後、貞観年間（859年〜876年）に回峰行を創始した相応和尚が寺院を創建し、自作の不動明王を安置されました。

伊崎寺は、山号を「姨倚耶山（いきやさん）」といい、西国巡礼札所である長命寺と同じ山号です。奈良時代、修験道の

8月1日に同寺において行われる千日会にあわせて行われ

伝統の継承に尽力



平成18年から伊崎寺住職を務める上原行照さん

平成17年に発生した不慮の事故を乗り越え、伝統行事の再興に尽力されている伊崎寺住職の上原行照さんにお話をうかがいました。

「かつては琵琶湖の夏の行事を盛り上げようと度胸試しの場として自由に飛び込むことを良しとしていた時代もありましたが、現在は延暦寺で百日回峰行を満行し棹飛びを志願した行者に限らせていただいています。棹は剣、棹の先の鉄輪は羅索（五色の糸を撚った索状）といずれも不動明王が持つものを表していることから、いわば本来の形に戻ったのではと考えております。あつてはならない事故を未然に防ぐことを第一に考え、信者の皆さんをはじめ、地域の自治会や沖島消防団など多くの伝統行事の継承にこれからも努めてまいりたいと思っております」

人口と世帯 令和元年7月1日現在 ()は前月比

総数 82,105人 (-11)
男 40,361人 (-17)
女 41,744人 (+6)
世帯 33,811世帯 (+23)

※外国籍住民(38カ国・地域/1,463人)を含みます。

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などで配布しているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

Facebook



YouTube



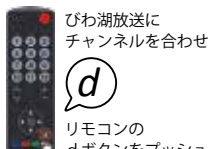
マチイロ



マイ広報紙



テレビ画面で広報紙



びわ湖放送にチャンネルを合わせ
リモコンのdボタンを押し!

広報おうみはちまん

令和元年8月号

編集・発行/近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp

WEB http://www.city.omihachiman.shiga.jp



この冊子は環境配慮型印刷(植物性インク)の印刷を行っています。